

第72番札所 我拝師山 延命院 曼荼羅寺

— 歌人・西行も訪れた、壮大な宇宙観を表す「曼荼羅」寺 —

本尊：大日如来
(3月、9月の彼岸7日間のみご開帳)
所在地：香川県善通寺市吉原町1380-1
TEL：0877-63-0072
宿坊：なし



四国霊場で最も古い、飛鳥時代の596年創建といわれる曼荼羅寺。弘法大師の一族で讃岐の領主・佐伯氏の氏寺として創建され、当初は「世坂寺」と呼ばれていました。

弘法大師がこの寺を訪れたのは、唐から帰国した翌年の807年。遣唐使として留学中に、真言密教を学んだ長安の青龍寺を模して伽藍を建立し、持ち帰った金剛界と胎蔵界の曼荼羅を納め、寺名を曼荼羅寺としました。これは一説によると、亡き母、玉依御前の冥福を祈るためだったともいわれています。

曼荼羅は、仏様の配置により真言密教の宇宙観を具体化したもので、中心には大日如来が鎮座しています。胎蔵界曼荼羅は母親が子どもを慈しんで育てるように、大日如来の慈悲のもと、仏心を育て悟りの世界へ導く様子を、金剛界曼荼羅は大日如来の智慧の世界を表現しています。

現在の本堂には、金剛界の大日如来が安置されていて、370枚もの格子からなる格天井の内陣には星座が描かれているそうです。普段、拝観することはできませんが、目の前に壮大な宇宙が広がっていることを想像して手を合わせるだけで、気持ちにゆとりが生まれそうです。

また、平安時代末期の歌人の西行法師が度々訪れていたことでも有名な曼荼羅寺。西行が昼寝をしていたといわれる昼寝石に腰掛けて、一句詠んでみるのも風流です。

